

「書道Ⅲ」の目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

「書道Ⅲ」の学習内容と学習計画

「高等学校学習指導要領 芸術科 書道Ⅲ」に示された「内容」のうち、「A表現」「B鑑賞」の各事項を指導する。主たる学習材として光村図書発行『書Ⅲ』教科書を使用し、当該教科書に示された学習内容に即して学習活動を展開する。

「書道Ⅲ」の評価規準について

「書道Ⅲ」の特性に応じた評価の観点は「書への関心・意欲・態度」「書表現の構想と工夫」「創造的な書表現の技能」「鑑賞の能力」である。評価・評定にあたっては、学習指導要領の目標を達成するために設定した学習活動（単元・教材）に対し、四つの観点にもとづく評価規準をそれぞれ設定する（次ページ以降の年間指導計画では、順に【関】【想】【技】【鑑】と表示）。

参考 年間指導計画作成にあたっての配慮事項**[年間指導計画の作成にあたって]**

- ・学習指導要領に示された目標と指導事項を確認する。
- ・学校の教育目標との関連を検討する。
- ・生徒の興味や能力などの実情、学校行事などの年間スケジュールとの関連、地域の行事や書文化的環境等の実態を把握する。
- ・教科書等により指導内容を検討する。
- ・指導内容の重点化や系統化などを検討し、月別に単元・目標・指導内容・教材・指導時数を配当するなど、指導内容の構成を検討する。

[授業時数の配当にあたって]

- ・単位については、50分を1単位時間とし、35単位時間の授業を一単位とすることを標準としている。「書道Ⅲ」の標準単位数は2単位のため、70単位時間を標準として授業時数を配当した。
- ・『書Ⅲ』教科書の単元別授業時数については、例えば、次のような配当が考えられる。
 - ①教科書全体を平均的に扱う場合。
※学習指導要領「書道Ⅲ」の「内容の取扱い」にもとづき、次のような学習計画を立てることが考えられる。
 - ②「漢字仮名交じりの書」を扱わない場合。
 - ③「漢字の書」を扱わない場合。
 - ④「仮名の書」を扱わない場合。

[単元別授業時数]

	①	②	③	④
1 漢字の書を探究しよう	27	32	0	40
2 仮名の書を探究しよう	22	28	40	0
3 漢字仮名交じりの書を探究しよう	12	0	20	20
4 篆刻・刻字を探究しよう	4	4	4	4
5 資料	5	6	6	6
総授業時数	70	70	70	70

月	時数	単元名・教材名・指導目標	指導事項	学習活動	評価規準	
4	6	鑑賞の切り口 書論 [教科書 P. 2] ◎書論の重要性を理解させる。 ◎書論をもとにした鑑賞の切り口を捉えさせる。	Bア・イ・ウ	① 鑑賞の切り口として、先人の書論が重要な要素となることを知る。 ② 書論を読み、先人の説く鑑賞の新しい視点を知る。	【関】 鑑賞の切り口となる書論に関心を持ち、書之美を味わうための多様な視点を獲得しようとしている。 【鑑】 鑑賞の切り口としての書論を理解し、鑑賞の視点を身につけている。	
		1 漢字の書を探求しよう				
		漢字の書の多様性を楽しむ [教科書 P. 4-5] ◎漢字の書の多様性を理解させて、書き手の感性や美意識、創造力を理解させる。	Bア・ウ	① 「崔子玉座右銘断簡」を鑑賞し、大字の草書で俯仰法を用いた気迫のある線質から生まれる表現美を捉える。	【関】 「崔子玉座右銘断簡」の表現技法に関心を持ち、美しさを感じ取っている。 【鑑】 古典から、個性や美しさを感じ取り、創作へ生かそうとしている。	
		【篆書】 古典の書風を生かして書こう 「散氏盤」 「天発神識碑」 [教科書 P. 6-7] ◎篆書が字形や筆法により、多彩な表現になることを理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「散氏盤」「天発神識碑」の特徴を理解させる。	A2)ア・イ	① 「散氏盤」を鑑賞し、独特な文字のねじれや傾きを生かした表現を捉える。 ② 「天発神識碑」の角張った転折や背勢に絞り込む曲線、鋭く切り込む起筆、とがりのある収筆より生まれる表現美を捉える。 ③ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ④ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「散氏盤」「天発神識碑」の表現技法に関心を持ち、その美しさを感じ取っている。 【想】 篆書の造形を分析することによって、創作の構想に結びつける視点を養っている。 【技】 篆書の多彩な表現を体験することで、篆書の技法を確認している。 【鑑】 古典から個性や美しさを感じ取って、創作へ生かそうとしている。	
【篆書】 多彩な表情を楽しもう 「中山王サク方壺」 「篆書崔子玉座右銘四屏」 [教科書 P. 8-9] ◎多彩な篆書の表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「中山王サク方壺」「篆書崔子玉座右銘四屏」の特徴を理解させる	A2)ア・イ Bア・イ・ウ	① 「中山王サク方壺」の重心が高く、しなやかで、装飾的な文字の表現美を捉える。 ② 「篆書崔子玉座右銘四屏」の縦長で重心を高くする字の構え、縦に伸びる線の中程を細めにする事で足長に見せる繊細で優雅な表現美を捉える。 ③ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ④ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「中山王サク方壺」「篆書崔子玉座右銘四屏」の表現技法に関心を持ち、その美しさを感じ取っている。 【鑑】 それぞれの古典から、個性や美しさを味わい、楽しむことで、創作への関心を高めようとしている。			
5	6	【隷書】 古典の書風を生かして書こう 「礼器碑」 「銀雀山漢簡」 「敦煌漢簡」 [教科書 P. 10-11] ◎古典の書風を創作に生かして表現させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「礼器碑」「銀雀山漢簡」「敦煌漢簡」の特徴を理解させる。	A2)ア・イ	① 「礼器碑」の均整のとれた造形と細身で鋭い波磔による高い品格の表現美を捉える。 ② 「銀雀山漢簡」のやや右上がりや懐が広く、突くような起筆と息の長い線による安定感のある表現美を捉える。 ③ 「敦煌漢簡」の扁平で、勢いのある左右の払いによる表情豊かな表現美を捉える。 ④ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ⑤ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「礼器碑」「銀雀山漢簡」「敦煌漢簡」の表現技法に関心を持ち、その美しさを感じ取っている。 【想】 「礼器碑」「銀雀山漢簡」「敦煌漢簡」の書風を捉え、表現を工夫している。 【技】 「礼器碑」「銀雀山漢簡」「敦煌漢簡」の線質、字形、構成など、表現の技能を習得している。 【鑑】 それぞれの古典から、その個性や美しさを感じ取って、創作へ生かそうとしている。	

月	時数	単元名・教材名・指導目標	指導事項	学習活動	評価規準
		<p>【隷書】 多彩な表情を楽しもう 「張遷碑」 「開通褒斜道刻石」 「隷書崔子玉座右銘」 「隷書七言聯」 「題昔邪之廬壁上」 [教科書 P. 12-15]</p> <p>◎多彩な隷書の表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「張遷碑」「開通褒斜道刻石」「隷書崔子玉座右銘」「隷書七言聯」「題昔邪之廬壁上」の特徴を理解させる。</p>	A2)アイ Bアイ・ウ	<p>①「張遷碑」の方形に納めたような字形、直線的で点画に抑揚をつけず重量感のある表現美を捉える。 ②「開通褒斜道刻石」の大らかな表現美を捉える。 ③「隷書崔子玉座右銘」の漢代の隷書を基調とした字形、点画に筆圧が十分行き渡る粘り強い表現美を捉える。 ④「隷書七言聯」の漢代の隷書の骨格を基調としながら運筆に微動を与え、かつ点画を強調させ、対聯として対比も配慮した表現美を捉える。 ⑤「題昔邪之廬壁上」の極端な細太をつけた線と長い左払いによる奇抜な表現美を捉える。 ⑥ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ⑦ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。</p>	<p>【関】「張遷碑」「開通褒斜道刻石」「隷書崔子玉座右銘」「隷書七言聯」「題昔邪之廬壁上」の表現技法に関心を持ち、その美しさを感じ取っている。 【鑑】それぞれの古典から、その個性や美しさを味わい楽しむことで、創作への関心を高めようとしている。</p>
6	9	<p>【行書・草書】 古典の書風を生かして書こう 「喪乱帖」 [教科書 P. 16-17]</p> <p>◎古典の書風を創作に生かして表現させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「喪乱帖」の特徴を理解させる。</p>	A2)アイ	<p>①「喪乱帖」を鑑賞し、しっかりした文字の構造と穏やかな表現美を捉える。 ② 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ③ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。</p>	<p>【関】「喪乱帖」の表現技法に関心を持ち、その美しさを感じ取っている。 【想】「喪乱帖」の書風を捉え、工夫して表現している。 【技】「喪乱帖」の線質、字形、全体構成など、表現の技能を習得している。 【鑑】個性や美しさを感じ取り、創作へ生かそうとしている。</p>
		<p>【行書・草書】 多彩な表情を楽しもう 「自叙帖」 「伊都内親王願文」 「玉泉帖」 [教科書 P. 18-19]</p> <p>◎多彩な行書や草書の表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「自叙帖」「伊都内親王願文」「玉泉帖」の特徴を理解させる。</p>	A2)アイ Bアイ・ウ	<p>①「自叙帖」の狂草の特長である構成上の落差、側筆と直筆を自由自在に操る動的な表現美を捉える。 ②「伊都内親王願文」の側筆と直筆を駆使し、抑揚を利かせた運筆による表現美を捉える。 ③「玉泉帖」の楷行草体を織り交ぜ、側筆と直筆を駆使し文字の大小や筆圧の強弱も自在な表現美を捉える。 ④ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ⑤ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。</p>	<p>【関】「自叙帖」「伊都内親王願文」「玉泉帖」の表現技法に関心を持ち、その美しさを感じ取っている。 【鑑】それぞれの古典から、その個性や美しさを味わい楽しむことで、創作への関心を高めようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名・指導目標	指導事項	学習活動	評価規準
		<p>【行書・草書】 個性豊かな作品を楽しもう 長条幅（張瑞図，黄道周，王鐸，倪元璐，傅山） 〔教科書 P. 20-21〕</p> <p>◎行書や草書の個性豊かな表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞を通して各作品の特徴を理解させる。</p>	Bア・ウ	<p>① 張瑞図の直線的で力強い運筆，左右へ思い切りのよい広がりを見せる字形，切り込むような点画からの緊張感など，リズムカルで歯切れの良い独創的な表現美を捉える。</p> <p>② 黄道周の息が長く自然な連綿，誇張のない墨の使い方，左下に向かう字形や斜めに引く筆画，そして右肩部の強調などの表現美を捉える。</p> <p>③ 王鐸の「王羲之」の柔軟さと「顔真卿」の重厚さを融合させた書法，覇気のある筆線と思い切った字形による表現美を捉える。</p> <p>④ 倪元璐の重心を上げて台形をイメージした字形，字間や点画の疎密などを配慮した伸びやかな線質による表現美を捉える。</p> <p>⑤ 傅山の変幻自在な運筆，気力が充実した表現美を捉える。</p>	<p>【関】 各作品の表現技法に関心をもち，その美しさを感じ取っている。</p> <p>【鑑】 それぞれの作品から，その個性や美しさを味わい楽しむことで，創作への関心を高めようとしている。</p>
		<p>【楷書】 多彩な表情を楽しもう 「魏靈藏造像記」 「楷書前後出師表巻」 「高貞碑」 〔教科書 P. 22-23〕</p> <p>◎多彩な楷書の表現を感じ取らせる。 ◎鑑賞・臨書を通して「魏靈藏造像記」「楷書前後出師表巻」「高貞碑」の特徴を理解させる。</p>	A2)ア・イ Bア・イ・ウ	<p>① 「魏靈藏造像記」の直線的で切れのある運筆，右上がりを意識した字形，収筆を上方向へ跳ね上げるなどの表現美を捉える。</p> <p>② 「楷書前後出師表巻」の扁平で向勢の字形，鋭い起筆とゆったりした右払いによる穏和な表現美を捉える。</p> <p>③ 「高貞碑」の厳正な構成による安定感ある表現美を捉える。</p> <p>④ 用具・筆順，字形の特徴を理解し臨書する。</p> <p>⑤ 古典から受ける印象や，表現・構成の効果を具体的に分析し，作品の美を構成する要素について話し合う。</p>	<p>【関】 「魏靈藏造像記」「楷書前後出師表巻」「高貞碑」の表現技法に関心をもち，その美しさを感じ取っている。</p> <p>【想】 楷書の多彩な表現を理解し，特徴を生かした表現の工夫をしている。</p> <p>【技】 楷書の多彩な表現を比較することで，用筆・運筆の技法を習得している。</p> <p>【鑑】 それぞれの古典から，その個性や美しさを味わい楽しむことで，創作への関心を高めようとしている。</p>
7	6	<p>漢字の書作品を味わう 〔教科書 P. 24-25〕</p> <p>◎書の美の諸要素や，表現方法・形式による効果を分析し，書の現代的意義について理解を深めさせる。</p>	Bア・ウ	<p>① 近現代の作品を鑑賞して，「線質，余白や空間性，表現・構成の効果」「筆者が表現しようとする美と，それを支えている要素」などをグループで話し合う。</p>	<p>【関】 それぞれの書作品に関心をもち，表現効果を味わおうとしている。</p> <p>【鑑】 表現方法や形式による効果，美を構成する要素を分析し，作品のよさや筆者の意図を感じ取っている。</p>
		<p>漢詩を書こう 〔教科書 P. 26-27〕</p> <p>◎これまでに学んだ古典を参考にして漢詩を創作させる。</p>	A2)ア・イ	<p>① 国語総合や古典で学んだ漢詩の中から気に入った漢詩を選ぶ。</p> <p>② これまでに学んだ古典を参考にして書体や書風を考える。</p> <p>③ 紙面構成を考える。</p>	<p>【関】 表現に合わせた用具・用材を選ぶことで意欲的，主体的な表現に取り組もうとしている。</p> <p>【想】 漢字の創作に対して感性を働かせ，自らの意図に基づいて表現を構想し工夫している。</p> <p>【鑑】 漢詩の内容に，自らの感情や気持ちを乗せて書くことに対して，興味・関心をもってしている。</p>

月	時数	単元名・教材名・指導目標	指導事項	学習活動	評価規準
		【コラム】書論の背景 黄庭堅 [教科書 P. 28] ◎名作の背景に作者の理念があることを理解させる。	Bア・イ・ウ	① 書論に示された内容を理解する。 ② 黄庭堅の書に対する理念が作品にどのように反映しているか鑑賞する。 ③ 書の歴史における宋代の書の特徴を理解している。	【関】 作者の理念と表現の関連について、興味・関心をもっている。 【鑑】 古典から、その個性や美しさを味わい楽しむことで、創作への関心を高めようとしている。
9	9	2 仮名の書を探求しよう			
		仮名の書の多様性を楽しむ [教科書 P. 30-31] ◎仮名の書の多様性を感じ取らせる。 ◎書き手の感性や美意識、創造力を理解させる。	Bア・ウ	① 「本阿弥切本古今和歌集」を鑑賞して、筆線の優雅さや大胆な構成、書き手の感性や表現美を捉える。	【関】 「本阿弥切本古今和歌集」の表現に関心をもち、美しさを味わっている。 【鑑】 作者の感性や創造力に関心をもち、他の仮名と比較しながらその美しさを感じ取っている。
		【平安時代中・後期】 字体の違いを捉えて書こう 「秋萩帖」 「升色紙」 [教科書 P. 32-33] ◎平安時代中期から後期を代表する仮名の字体の変化について理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「秋萩帖」「升色紙」の特徴と表現技法を理解させる。	A3ア・イ	① 「秋萩帖」を鑑賞し、ゆったりとした丁寧な運筆や墨の潤渇を生かした紙面構成の表現美を捉える。 ② 「升色紙」の細い筆線と、行頭の位置や行間の変化による豊かな表現美を捉える。 ③ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ④ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「秋萩帖」「升色紙」の表現技法に関心をもち、その美しさを感じ取っている。 【想】 各古典の書風を捉え、工夫して表現している。 【技】 線質、字形など、表現の技能を習得している。 【鑑】 それぞれの古典から、その個性や美しさを感じ取り創作へ生かそうとしている。
		【平安時代中・後期】 字体と表現の広がりを楽しもう 「桂宮本万葉集」 「十五番歌合」 「卷子本古今和歌集」 [教科書 P. 34-35] ◎平安時代中・後期を代表する仮名の字体と表現について理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して「桂宮本万葉集」「十五番歌合」「卷子本古今和歌集」の特徴と表現技法を理解させる。	A3ア・イ Bア・イ・ウ	① 「桂宮本万葉集」の強い筆力と側筆を生かした表現美を捉える。 ② 「十五番歌合」の草仮名を主体とした、ゆったりした表現美を捉える。 ③ 「卷子本古今和歌集」の一貫した連綿の表現美を捉える。 ④ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ⑤ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「桂宮本万葉集」「十五番歌合」「卷子本古今和歌集」の表現技法に関心をもち、その美しさを感じ取っている。 【鑑】 それぞれの古典から、その個性や美しさを味わい楽しむことで、創作への関心を高めようとしている。
		【平安時代末期】 書風の個性を捉えて書こう 「曼殊院本古今和歌集」 「一条摂政集」 [教科書 P. 36-37] ◎平安時代末期を代表する仮名の個人的な書風について理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して、「曼殊院本古今和歌集」と「一条摂政集」の特徴や表現技法を理解させる。	A3ア・イ	① 「曼殊院本古今和歌集」の力強さの中にある、優美で伸びやかな表現美を捉える。 ② 「一条摂政集」の滑らかで息の長い連綿による表現美を捉える。 ③ 用具・筆順、字形の特徴を理解し臨書する。 ④ 古典から受ける印象や、表現・構成の効果を具体的に分析し、作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「曼殊院本古今和歌集」「一条摂政集」の表現技法に関心をもち、その美しさを感じ取っている。 【想】 各古典の書風を捉え、工夫して表現している。 【技】 線質、字形など、表現の技能を習得している。 【鑑】 それぞれの古典から、その個性や美しさを感じ取り創作へ生かそうとしている。

月	時数	単元名・教材名・指導目標	指導事項	学習活動	評価規準
10	9	【コラム】 藤原家三代 能書の系譜 [教科書 P. 38-39] ◎世尊寺流の書法と表現について理解させる。	Bア・イ・ウ	① 藤原行成の確立した和様が、受け継がれていく中でそれぞれ個性ある表現美になっていく様子を捉える。 ② 「藍紙本万葉集」の歯切れのよい力強さの中にある優雅さを捉える。 ③ 「本願寺本三十六人家集」の側筆による温和な表現美を捉える。 ④ 「石山切貫之集下」の力強く大胆で張りのある筆線による表現美を捉える。 ⑤ 用具・筆順，字形の特徴を理解し臨書する。 ⑥ 古典から受ける印象や，表現・構成の効果を具体的に分析し，作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「藍紙本万葉集」「本願寺本三十六人家集」「石山切貫之集下」の表現技法に関心をもち，その美しさを感じ取っている。 【鑑】 それぞれの古典から，その個性や美しさを味わい楽しむことで，創作への関心を高めようとしている。
		【鎌倉時代以降】 際立つ個性を楽しもう 「更級日記」 「源氏物語抄」 「和歌一首」 [教科書 P. 40-41] ◎鎌倉時代以降を代表する仮名の個人的な書風について理解させる。 ◎鑑賞・臨書を通して作品の特徴と表現技法を理解させる。	A3ア・イ Bア・イ・ウ	① 「更級日記」の定家独特の太細を生かした表現美を捉える。 ② 「源氏物語抄」の滑らかな連綿による表現美を捉える。 ③ 「和歌一首」の飄々とした脱俗の表現美を捉える。 ④ 用具・筆順，字形の特徴を理解し臨書する。 ⑤ 古典から受ける印象や，表現・構成の効果を具体的に分析し，作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 「更級日記」「源氏物語抄」「和歌一首」の表現技法に関心をもち，その美しさを感じ取っている。 【鑑】 それぞれの古典から，その個性や美しさを味わい楽しむことで，創作への関心を高めようとしている。
		仮名の書作品を味わう [教科書 P. 42-43] ◎書の美の諸要素や，表現方法・形式による効果を分析し，書の現代的意義について理解を深めさせる。	Bア・ウ	① 近現代の作品を鑑賞して，「線質，余白や空間性，表現・構成の効果」「筆者が表現しようとする美と，それを支えている要素」などをグループで話し合う。	【関】 それぞれの書作品に関心をもち，表現効果を味わおうとしている。 【鑑】 表現方法や形式による効果，美を構成する要素を分析し，作品のよさや筆者の意図を感じ取っている。
		書と絵を調和させて書こう [教科書 P. 44-45] ◎下絵と書を調和させて表現させる。	A3ア・イ	① 書きたい和歌などの情景や作者の心情を想像し，下絵を表現する。 ② 下絵と調和させて字形や紙面構成を考え作品を制作する。 ③ 用具・筆順，字形の特徴を理解し創作する。	【関】 下絵と書の調和に関心をもち，意図に基づいて表現を工夫している。 【技】 ねらいを達成するために，書体・書風や紙面構成，用具・用材に関する知識・技能を適切に生かしている。 【鑑】 下絵と書の調和に関心をもち，表現の多様性を感じ取っている。
		【コラム】書論の背景 空海 [教科書 P. 46] ◎名作の背景に作者の理念があることを理解させる。	Bア・イ・ウ	① 書論に示された内容を理解する。 ② 空海の書に対する理念が作品にどのように反映されているか鑑賞する。 ③ 書の歴史における空海の功績を理解している。	【関】 作者の理念と表現の関連について，興味・関心をもっている。 【鑑】 古典から，その個性や美しさを味わい楽しむことで，創作への関心を高めようとしている。
11	9	3 漢字仮名交じりの書を探求しよう			
		漢字仮名交じりの書を楽しむ [教科書 P. 48-49] ◎漢字仮名交じりの書の作品から，筆者の表現意図を感じ取らせる。 ◎書き手の感性や美意識，創造力を理解させる。	Bア・ウ	① 會津八一の書を鑑賞し，漢字仮名交じりの書の作品から受ける印象や，表現・構成の効果を具体的に分析し，筆者の表現意図，作品の美を構成する要素について話し合う。	【関】 漢字仮名交じりの書の作品に関心をもち，表現効果を味わっている。 【鑑】 漢字仮名交じりの書作品から，個性や美しさを感じ取り，筆者の意図を理解している。

月	時数	単元名・教材名・指導目標	指導事項	学習活動	評価規準
		言葉と表現の響き合いを捉えよう [教科書 P. 50-51] ◎感動が言葉を生み、表現へつながることを理解させる。	A1ア・イ Bア・イ・ウ	① 村上翠亭、町春草、金子卓義の書を鑑賞し、感動を効果的な表現へつなげていることを理解する。 ② 自らの感動体験を言葉にし、効果的な表現へつなげるための総合的な構想を練り創作する。 ③ 効果的な用具・用材を選ぶ。	【関】 自らの作品を用具・用材との関係に関心を持ち、意欲的、主体的に表現しようとしている。 【鑑】 書の表現効果を味わい、自他の作品を見ることを楽しむことで、創作のすばらしさを感じ取っている。
12	6	[コラム]生活の中の書 [教科書 P. 52-53] ◎生活の中の書に表れた書き手の個性や思いを理解させる。	Bア・ウ	① 正岡子規、河東碧梧桐、棟方志功、石川啄木の書を鑑賞し、実用的な目的で書かれた中にある書き手の個性や思いを味わう。 ② 相手に伝えるために効果的な表現を工夫し制作する。 ③ 効果的な用具・用材を選ぶ。	【関】 自らの作品を用具・用材との関係に関心を持ち、意欲的、主体的に表現しようとしている。 【鑑】 生活の中の書に関心を持ち、表現の多様性を感じ取っている。
		未来への決意を書こう [教科書 P. 54-55] ◎未来への決意を表現させる。	A1ア・イ	① 書きたい言葉を考え、効果的な書体や構成を工夫して創作する。 ② 効果的な用具・用材を選ぶ。	【関】 自らの思いを表現することに関心を持ち、用具・用材を工夫して、表現を工夫している。 【鑑】 書の表現効果を味わい、創作的な表現のよさを感じ取っている。
		[コラム]自分の表現を求めて [教科書 P. 56] ◎言葉と向き合い、自分の表現を追求させる。	Bア・イ・ウ	① 日比野五鳳、中野北溟の書を鑑賞し、自分が求めていることを言葉にすることの意義を感じ、自分だけの表現を追求する。	【関】 書を身近に楽しむ姿から日常生活における書のよさを感じ取っている。
1 ・ 2 ・ 3	10	4 篆刻・刻字を探求しよう			
		篆刻を楽しむ [教科書 P. 58-59] ◎篆刻を通して、書を刻する文化を理解させる。	Bア・イ・ウ	① 印影、印面、側款、鈕の装飾、印材の種類などの角度から、篆刻の世界の広さや美しさを理解する。	【関】 篆刻について、興味・関心をもっている。 【鑑】 篆刻作品のよさを理解し、その魅力をさまざまな角度から感じ取っている。
		刻字を楽しむ [教科書 P. 60] ◎刻字を通して、書を刻する文化を理解させる。	Bア・ウ	① 刻字が、書表現に加えて、材質や彫り跡、彩色など、多彩な魅力を含んでいることを理解する。	【関】 刻字に興味・関心をもっている。 【鑑】 刻字作品のよさを理解し、その魅力をさまざまな角度から感じ取っている。
		5 資料			
		中国・日本書道史略年表 [教科書 P. 62-65] ◎中国と日本における書の歴史と文化を理解させる。	Bア・イ・ウ	① 書道史を概観し、古典・古筆の歴史的背景を確かめる。	【関】 中国と日本の書の文化について、関心を持ち、幅広く理解している。